

# 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業 令和2年度 高知の授業づくり講座(国語)

## 第3回 教材研究会 令和2年10月9日(木)実施 高知市立青柳中学校

発行 令和2年11月  
高知市教育委員会  
学力向上推進室



公開授業のレポートは、  
高知市教育委員会 学校  
教育課のHPをご参照くだ  
さい。

「『高知の授業の未来を創る』推進プロジェクト事業 令和2年度高知の授業づくり講座」では、学習指導要領が目指す授業づくりを押し進めるとともに、日常的に授業研究に取り組む風土づくりを行い、自ら学び続け、共に高め合う教員の育成を目指し、拠点校を会場に教材研究会・授業研究会を1セットとして、年間2セット実施します。2セット目の教材研究会は、今年度初めての公開教材研究会となりました。高知市の中学校国語の拠点校である青柳中学校の第3回【教材研究会】の様子を紹介します。

本教材研究会では、第1回・2回の国語科授業づくり講座の実践報告と本単元における提案(2時間目の授業のビデオ視聴、授業研究会の本時:3時間目の検討)と協議、また、新型コロナウイルス等感染症拡大防止対策の観点から、リモートにより講師(東京女子体育大学教授:田中洋一先生)の指導・助言をいただきました。

### 単元名: 青柳の風景の「今」を残す鑑賞文を書こう ~根拠を明確にして自分の考えを書く~

【出典】「根拠を明確にして魅力を伝えよう」(光村図書『国語1』)

#### 育成したい資質・能力

本単元では、**地域の方々の願いを受け、生徒たちが好きな地域の風景写真の鑑賞文を書く**という言語活動を設定する。言語活動を通して、どうすれば自分の伝えたい魅力が読み手に伝わる書き方になるか、鑑賞する観点を吟味し、魅力、事実と考えたことの示し方、印象的な言葉や表現の用い方を考えさせることを通して、目的・相手に応じて、自分の考えが相手に伝わる書き方を身に付けることができると思う。

#### 【学びに向かう力、人間性等】

・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

#### 【知識及び技能】

・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。  
〔(1)ウ〕

#### 【思考力、判断力、表現力等】

・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。〔B(1)ア〕  
・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。〔B(1)ウ〕

#### 協議① 言語活動を通して資質・能力の育成を図る単元構想になっているか。

##### 【参加者の意見】

○青柳地域を生かした面白い単元だと思う。モデル文A・Bと自分の鑑賞文を比較することで言葉を磨くことができる。  
○主体的に学習に取り組む態度の評価を単元の中心で図ることに提案性を感じた。  
●教師のモデル文が、思い(考え)に引っ張られている文であるように思う。「鑑賞文」とはどのようなものかを捉えることや、伝えたい「魅力」「根拠(事実と考え)」「まとめ」の関連付け等を思考させることも含め、教師のモデル文が適切か再考するとよいのではないかと。



#### 協議② 本時は「言葉による見方・考え方」を働かせ、資質・能力の育成を図る授業展開となっているか。

##### 【参加者の意見】

○語彙・表現技法を育成するものとして、「言の葉ノート」を作成・活用し、ワークシートの構成を工夫していることは、効果的であると思う。  
●この時間、何ができたか、何のどのようなことから「主体的に学習に取り組む態度」を評価してBとするのかが分かりづらい。



#### 第4回 授業研究会に向けての改善点

##### ①鑑賞文モデルの活用の見直し

###### 【修正前】

①教師モデルで鑑賞文の仕組みを捉える。  
②教師モデルと自分の書いた鑑賞文を比較する。  
⇒教師モデルのみで鑑賞文の仕組みや視点を捉えさせる。

###### 【修正後】

①教科書の鑑賞文モデルで仕組みを捉える。  
②教師モデルと教科書モデルを比較し、書く目的と相手に応じたゴールイメージを明確にする。  
③2つの教師モデルの比較から捉える視点を明確にし、自分の書いた鑑賞文と比較する。  
⇒鑑賞文の教科書モデルと教師モデルを意図的・効果的に活用する。また、教師モデルの内容についても再検討する。

##### ②評価規準・評価方法の明確化

###### 【修正前】

本時の評価規準における評価方法は決めていたが、具体的な内容を示すことができていない。

###### 【修正後】

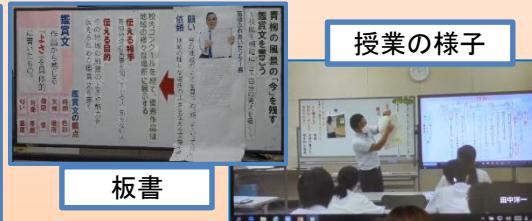
本時の評価規準における評価方法で確認する内容を具体的に設定する。

⇒【評価方法】観察、ワークシート:ここでは、風景写真の魅力が読み手に伝わるように、「魅力」と「題名」「まとめ」の関連、「魅力」と「根拠」の結びつき、言葉の表現の工夫について見直したことを伝え合ったり、書き加えたりしているかを確認する。

#### I ビデオ視聴 本単元(2時間目)の授業

2時間目:分析した観点から伝えたいことを絞り、鑑賞文を書く

①モデル文から、魅力を伝えるための工夫を捉える。  
②前時に分析したワークシートを基に、自分の選んだ写真の魅力が伝わるか、ペアで共有する。  
③共有したことを基に、鑑賞文を書く。



授業の様子

板書

#### 選んだ写真を分析(1時間目)

分析した  
観点

分析したことを  
共有

鑑賞文

観点を絞って  
鑑賞文を書く

#### II 第4回 授業研究会に向けて 本時(3時間目)の検討

3時間目:自分の書いた鑑賞文とモデル文を比較し、練り直す

教師のBモデルの文とAモデルの文を比較したあと、Aモデルと自分の書いた鑑賞文を比較し、書き方の工夫を捉えさせ、鑑賞文を練り直す。  
⇒伝えたい「魅力」と「題名」「根拠(事実と考え)」「まとめ」の部分の言葉や内容につながりを持たせることで、読み手に伝えたい魅力をわかりやすく伝えることができることを押さえる。

生徒が書いた鑑賞文

評価規準【主体的に学習に取り組む態度】  
粘り強く自分の考えが伝わるように工夫し、学習課題に沿って書こうとしている。

Aモデル

Bモデル

学習指導案 P.4 参照

#### 思考力を高めるための書くことの指導



東京女子体育大学  
田中 洋一 教授

##### ①文種別の書き方を理解させる

・文章力を高めるためには、鑑賞文、報告文、記録文等の基本的な書き方を学ばせることが必要。

##### ②単元の言語活動を位置付ける

・言語活動を位置付けることで、目的意識と相手意識が明確になり、書くことの指導の約7割(どんな情報、題材でどのように書くか等)が決まる。

##### ③資質・能力、指導事項の重点化を図る

・書くことの学習過程の中で重点を置いた指導を行う。いつも長い文を書かせる必要はない。

#### 【参加者の感想より】

・目的意識と相手意識を明確にした言語活動課題を設定することの大切さに改めて気付きました。子どもが主体的に取り組める活動を指導者自身が考え、自ら取り組むことの大切さも分かりました。  
・自分の意欲の向上や、普段の実践を振り返る機会になりました。学校に持ち帰って共有し、よりよい教科会になるように生かしていきたいと思えます。  
・国語科で学んだことが他教科でもいかされ、生徒の力を伸ばす足がかりになるように教科会や授業で活用したいです。